

学校評価（自己評価）報告書（項目別表）

平成28年度

学校名	筑波大学附属小学校
-----	-----------

項番	評価項目	具体的評価結果
1-1-1	説明、板書、発問など、各教員の授業の実施方法	校内研究会を通して互いの授業技術についての意見交換を定期的に行うことで、授業技術の向上が確信できた。板書については、小学校の教員は一般に45分の授業を板書を消したり書いたりすることなく、展開がビジュアルにわかるよう構成していくという文化をもっているが、全国の教員の手本となる板書の構成技術を持った教員が多数存在している。
1-1-3	体験的な学習や問題解決的な学習、児童生徒の興味・関心を生かした自主的・自発的な学習の状況	児童の興味を刺激しつつ、45分間飽きさせることなく集中させる授業に取り組むことができた。特に知識の活用を意図的に設定することで役に立つ学びの在り方を実感させていくことができたと考える。本校では専科制度をとっているが、互いの専門領域にも踏み込んだ議論を校内研究会などを通して実現できたことが成果につながったと考えている。
1-2-2	児童生徒の学力・体力の状況を把握し、それを踏まえた取組の状況	日常の児童の評価、また文部科学省学力テストやスポーツテストなども活用して本校の児童の体力の高さ、学力の高さは相対的によい傾向は示していることがわかったが、継続して探求していく力、教科によっては意欲などが少ないという面も見えてきたので、各教科の授業だけではなく総合活動などを通じて、児童に新しい探究活動の場を提供していくことを試みた。
3-1-2	問題行動への対処の状況	問題行動については、担任だけではなく生活指導主任をリーダーとして各専科教員と早い段階で情報を共有し対処に当たってきた。また別に児童指導会議を適時設けて、カウンセラーにも協力を仰ぎ、保護者と連絡を密にして事後指導も行ってきた。
3-2-1	自ら考え、自主的・自律的に行動でき、自らの言動に責任を負うことができるような指導の状況	通学分団や縦割り清掃など児童の自治活動の場を設け、自らの判断でよりよい学校生活、安全な登下校、通学マナーの確立などを考えさせてきた。特に登下校中に起きる友達同士のトラブルについて集会などで議論させることを通じていじめの問題などの指導の場としても適時活用することができた。
4-1-3	法定の学校保健計画の作成・実施の状況、学校環境衛生の管理状況	養護教諭が中心となり、毎月行われる保健部会において実施状況を把握し、適時児童への指導、担当各教諭への指導と注意を行ってきた。特にインフルエンザなどの流行する時期においては、細かな注意喚起を全校集会などを通じて心掛けた。
5-1-4	危機管理マニュアル等の作成・活用の状況	防災、防火に関わる体制づくりをマニュアルに沿いおこなった。避難訓練、救助訓練などは児童だけでなく、保護者対象のものも行き、緊急時の役割分担、連絡体制の確立を行った。さらに合宿などに行く場合にも現地で必ず避難訓練を行い、学校外の活動においても児童に緊急時の対処の仕方についての意識づけをおこなった。
6-1-1	特別支援学校や特別支援学級と通常の学級の児童生徒との交流及び共同学習の状況	大塚特別支援学校と保谷農園におけるジャガイモの収穫活動などを通して三年生同士の交流活動も行った。また四年生が黒姫合宿へ参加し互いの個性やよさを認め合い、助け合うことでよき関係づくりができた。
11-1-1	学校運営へのPTA（保護者）、地域住民の参画及び協力の状況。	若桐会、後援会における支援は他は類を見ない強力な体制であり、夏休みの水泳教室や若桐祭、学校の広報誌づくりなどを通して積極的に学校運営をサポートしていただいた。また学校評議委員会では、地域の方、本校OB教員、大学など有識人などに関わっていただき、多様な視点からのアドバイスをいただいた。
14-1-1	入学者選抜	毎年4000人を超える入学希望者への考査では、第一次試験の抽選で本校の受験キャパシティに見合う数まで調整し、第二次試験では生活行動能力等を見ることを中心に行った。さらに、公平性を高めるために、第三次試験では、検査合格者200名の中から、定員となる128名(32名4学級)を抽選で選出した。
14-1-2	大学との連携・協力	四校研では、小学校、中学校、高校、大学の各教科専門家で集い、一貫教育の具体的な方策について議論し合った。教科によっては交換授業なども行き、互いの児童の状況を理解しあうことができた。また本校の研究会においては分科会指導助言者として筑波大学の先生方に参加していただき助言を受けた。

14-1-3	先導的教育研究	毎月校内での研究授業を行い、研究テーマ「きめる学び」についてや、その具体的な指導方法について、協議を繰り返しながら内容を深めることができた。その成果は研究紀要にまとめ、研究発表会で発表し、さらに月刊「教育研究」等で広く世に問うことができた。
14-1-4	教員養成・教師教育	6月、7月、9月の三回の教員免許更新制度を実施し、好評を博している。また各県教育委員会の視察や現地に赴いての指導を本校教員がおこなった。また6月と2月の初等教育研究会では全国の教師の研修の場としてたくさんの参加者があった。
14-1-5	国際交流・国際貢献	4年生を対象としたサンフランシスコ児童交流会や5,6年の筑波大学の留学生との交流会などを通して児童のグローバル素養の育成を目指す活動をおこなった。またJICAや海外の教員研修の場として授業参観の機会を設けたり、講座を担当したりして教員のグローバル資質の向上の機会とすることもできた。
14-1-6	社会貢献	文京区の学力向上アドバイザーとして協力したり、文部科学省の学習指導要領の委員や学力テストの作成委員、分析委員などに協力した。また多くの教員が各県、地域の教育委員会の講座、各学校の研究会への講師としての派遣依頼があり、各地域の教師教育に貢献できた。